



InnovateX Co., Ltd.

**COMPANY
PROFILE
2025-26**



**廃プラスチックの常識を変えるテクノロジーで、
持続可能な未来を創る。**

混合・複合・リサイクル困難材を、社会に残る建材へ。

これまで焼却や埋立に回りがやすかった廃プラスチックを、独自技術
によって建材へと再資源化する会社です。

素材開発から製品化、社会実装まで、一気通貫で取り組んでいます。

リサイクルで終わらせない。文化に変える。

InnovateXは、廃プラスチックを“処理する対象”ではなく、社会に残る価値へ変えていく会社です。

私たちの出発点は、現在のリサイクルのあり方への違和感でした。

回収され、分別され、再生されたとしても、それが社会の中で使われ続けなければ、本当の意味で資源が循環しているとは言えない。リサイクルは手段であって、目的ではない。建材として実装され、街に残り、人に使われ続けてこそ、資源循環は文化になる。

InnovateXは、その実装に挑んでいます。

企業ごとの廃材特性に応じた配合設計

企業廃材
5%～30%

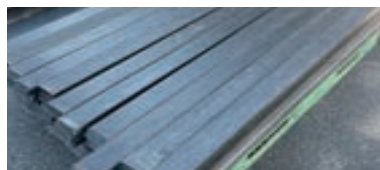
オリジナル配合素材 70%～95%

※オリジナル配合素材も廃プラスチックからできています

オリジナル配合素材100% / EcoBorn - エコボーン

長さ182cmの2×4材(約7kg) 1本あたり**14.9kg-CO₂e削減**

※焼却処理との比較による算定値



代表者メッセージ

行き場のない廃プラスチックを、社会に残る価値へ変える。技術だけで終わらせず、使われ続ける仕組みまでつくる。それが、InnovateXの使命です。

代表取締役 潮来喜久夫

いま、必要なのは“処理”ではなく“再価値化”です。

燃やすしかないを減らす

混合・複合・汚れなどを理由に、焼却・埋立に向かいやすい廃プラスチックに、新しい出口をつくります。

素材で終わらせない

再資源化して終わりではなく、ベンチ、テーブル、建材として、社会の中で使われる形まで設計します。

技術を、実装につなげる

研究開発、試作、製品化、導入先との連携まで、現場で動く仕組みづくりを進めています。



技術を、社会実装までつなぐ。

InnovateXは、独自素材「EcoBorn」を軸に、
廃プラスチックの再資源化を事業として成立させるところまで設計しています。

01 | 企業廃材の建材化

企業から排出されるリサイクル困難材を活用し、
建材化の可能性を検証。自社廃材を価値ある素
材へ変える取り組みを進めています。

02 | EcoBorn製品の開発・提供

再生建材「EcoBorn」を用いたベンチ、ガーデニ
ングテーブル、デッキ材、ルーバーなどの製品展
開を進めています。

03 | 自治体・施設への導入提案

公共空間や施設への導入を通じて、資源循環を
“見える形”で実装。
街に残る価値として、再資源化の意義を伝えます。

04 | 共同開発・実証・事業連携

素材メーカー、排出企業、自治体、施設運営者
などと連携し、実証・検証・共同開発・導入支援
を進めています。

InnovateXの強み

難しい廃材に向き合う技術

従来のリサイクルでは扱いにくかった廃プラスチックに
も挑戦し、建材という出口へつなげます。

環境価値を、見える形にできる

ベンチやテーブルなど、実際に使われる製品へ展開す
ることで、循環の価値を生活空間の中で伝えます。

素材開発だけで終わらない構想力

“何をつくるか”だけでなく、“どこで使われるか”までを
見据えて設計します。

協業しやすい事業モデル

排出企業、自治体、施設、販路企業など、それぞれの立
場に合わせた連携の形をつくれます。

RELENX | 循環を見える化する仕組み

リレンクス

廃材提供者、製品情報、購入者、設置場所などを登録し、Web上で可視化。
QRコード付き金属プレートを製品に取り付けることで、資源循環のプロセスを
誰でも確認できるようにします。

廃材提供企業

製品化

QRプレート貼付

Webで履歴表示

設置場所で見える化



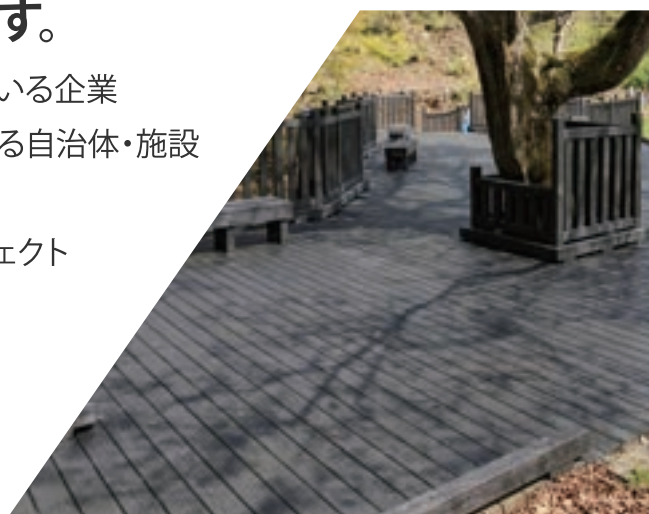
共創いただけるパートナーを求めています。

- 自社から出る廃プラスチックの新しい活用方法を探している企業
- ベンチやテーブルなど、環境配慮型の導入を検討している自治体・施設
- 素材、製品、販路、実証の面で連携できるパートナー企業
- “資源循環を見える化したい”と考えている組織やプロジェクト

廃棄物を減らすだけではない。

使われ続ける価値を社会に残す。

そのための連携を、InnovateXは歓迎します。



資源循環を、処理で終わらせず、文化へ。

沿革

- 2020 リサイクル困難な廃プラスチックの再資源化に着手。
研究開発と成形加工、双方の知見をもとに試行錯誤を開始。
- 2021 廃プラスチックの結合・溶解に必要な添加技術の検討を重ね、独自配合の方向性を確立。
- 2022 研究開発設備の導入を決定。補助金を活用し、技術開発体制を強化。
- 2023 各種廃プラスチックの配合比率と成形条件を検証し、建材化に成功。独自素材をEcoBornと命名。
- 2024 第三者機関による強度検証を開始。企業廃材の受け入れ実証に向け、
2024年8月 InnovateX株式会社を設立。
- 2025 企業廃材との配合検証を進め、自治体へベンチ・ガーデニングテーブルを寄贈。
試作依頼の受託を開始し、事業化を本格化。
- 2026 EcoBornの納品開始、新規取引先との連携拡大、水戸さきがけビジネス大賞 最優秀賞受賞。
設備増設・新工場フェーズへ移行。

会社概要

会社名 InnovateX株式会社

代表者 代表取締役 潮来 喜久夫

設立 2024年8月

所在地 〒311-4341茨城県東茨城郡城里町下古内1682-6—2F

事業内容 廃プラスチックを活用した再生建材の開発・製造・販売

企業廃材を活用した建材化・製品化支援

公共空間・施設向け製品の企画提案

共同開発・実証プロジェクトの推進



029-291-3871



info@innovatex.co.jp



https://innovatex.co.jp

